



「晴天と雲海（高清水峠から物見山を望む）」（岩手県遠野市）[提供：岩手南部森林管理署遠野支署]

特集

令和3年度国有林モニター現地見学会・モニター会議を開催

[企画調整課]

CONTENTS

■美しい森林づくり

六戸町館野公園「メイブルの森」での植樹祭の取組 …… [三八上北森林管理署]

■我が署の名所

岩手の仙人峠 …… [岩手南部森林管理署遠野支署管内]



特集



令和3年度国有林モニター

現地見学会・モニター会議を開催

企画調整課

国有林野事業では、国民との双方向の情報・意見の交換など対話型の取組を進めています。その一つとして、国有林モニター制度を活用し、国民ニーズの把握やそれらを反映した国有林野の管理経営を推進しています。こうした取組により国民の皆様からの国有林野事業に対する幅広い理解と支援を得るよう努めています。

国有林モニターの方々には、資料提供や現地見学会を通じて国有林野事業についての理解を深めていただき、アンケートや意見交換等により、国有林野事業についてご意見・ご提案をいただくこととしています。東北森林管理局においては、令和2年4月から2年間、管内5県にお住まいの48名の方が国有林モニターとして活動しています。

今年度は当初、7月に現地見学会を開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感

染症の感染拡大状況を考慮し、中止としました。代替りの活動として、国有林モニターの方々がお住まいの地域の近隣森林管理署等で開催する現地検討会に参加していただきました。

秋に入り、新型コロナウイルス感染症の新規感染者数が減少してきたことから、感染対策を徹底した上で秋田森林管理署管内において、10月29日(金)現地見学会・モニター会議を開催しました。当日は、天候にも恵まれ、国有林モニター25名が参加しました。

1 多様で健全な森林づくり

秋田県秋田市河辺三内字財ノ神国有林243、244林班において、多様で健全な森林づくりを行っている箇所を見学していただきました。

国有林では森林の有する多面的機能を持



多様で健全な森林づくりの説明

統的に発揮していくため、現地の状況に応じた多様で健全な森林への誘導を推進しています。

見学箇所は「多様な森林づくり見える化プロジェクト林」に設定されており、森林計画制度に基づき森林施業を実施していることや東北森林管理局が目指す森林のイメージについて説明した後、現在の森林の状況を遠望しました。



多様で健全な森林づくりの説明

2 ドローンの活用

秋田県秋田市河辺三内字財ノ神国有林240林班でドローンの航行と活用について見学していただきました。

ドローンの自動航行を見学いただくとともに、ドローンで撮影した空中写真でオルソ画像を作成し、GIS等で位置、距離及



ドローンの自動航行の見学



オルソ画像の説明

び面積などを計測することにより、現地での測量作業を大幅に軽減できることを説明しました。



3 国有林モニター会議

① 東北森林管理局の取組説明と意見交換

秋田県健康増進交流センター「ユフフォー」において、国有林モニター会議を開催しました。

会議では、企画調整課長より、森林・林業の動向、新たな森林・林業基本計画、東北森林管理局としての取組について説明したのち、意見交換を行いました。意見交換では、民有林への対応、ウッドショックへの対応、森林サービス産業や森林環境教育に関する事など、様々な質問がありました。



モニター会議の様子

② 2年間を通してのご感想・ご意見

2年間国有林モニターとして活動してこられたご感想やご意見を伺いました。「国有林の持っているノウハウを民有林にも積極的に発信してほしい」、「林業の職場が若い人が希望をもって働けるように環境を整えてほしい」、「モニター活動で得たものを少しでも、子ども達にも広めていきたい」などのご感想・ご意見をいただきました。

会議でのご意見・ご要望等については、今後の国有林野の管理経営に反映させるよう努めてまいりたいと考えています。



令和4・5年度「国有林モニター」の募集

東北森林管理局は、国有林の管理経営に国民の皆様の声を役立てていくため、モニターを募集しています。

募集人員：48名程度 ※各地域内の人数及び年齢・男女比等の均衡を図るため最終的な人数は前後することがあります。

募集期間：令和3年12月1日(水)～令和4年1月31日(月)【当日必着】

任期：令和4年4月1日から2年間

内容：アンケートへの回答・現地見学会・国有林モニター会議への出席など
応募資格、応募方法など、詳しくは局HPをご覧ください。

お問い合わせ先：東北森林管理局 企画調整課 林政推進係

TEL：018(836)2228 FAX：018(836)2031

メールアドレス：t_kikaku@maff.go.jp

HP: <https://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/>



美しい森林づくり

六戸町舘野公園「メイプルの森」での植樹祭の取組

当署で実施した国有林以外のフィールドで行われた植樹祭における連携について、紹介します。

この植樹祭は、六戸高校が令和4年度で閉校する記念として、六戸高校に隣接する舘野公園の一面に六戸高校、中学校、小学校の生徒による植樹祭を開催することになり、六戸町の緑化推進委員となっている署長に六戸高校より植樹祭への協力要請があったものです。

植樹祭は、11月4日舘野公園内の北側の駐車場に隣接する約0.60haで、同高生徒と六戸中、六戸小の生徒、児童ら約210人が参加し行われました。

はじめに、同高の校長が「今回の植樹祭は、生徒皆さんが六戸高での学びを忘れず



植樹の説明を行う署員

に地域を愛し、発展に貢献する一助になる」と挨拶し、参加者が紹介された後、当署職員3名が、植樹指導を行い、植樹が始まりました。参加者は、高校生を中心に混成した20班に分かれて唐鍬で穴を掘り、高さ50cmほどの苗木を植え、支柱をたてていきます。高校生は小・中学生に手順を教えながら作業を進め、一本一本丁寧に、約1時間かけてイタヤカエデ苗木200本を

植えました。参加者の中には、穴を掘る作業や苗木を支柱に固定する作業に、悪戦苦闘する班もありましたが、協力しながら仲良く、楽しんで植樹体験ができたのではないかと感じています。

この公園は多くの町民の憩いの場として利用されており、植樹されたイタヤカエデは、カエデが「町の木」となっていることや秋には、葉が黄色く色づき、公園内にあるモミジ類の赤色とのコントラストにより、優れた景観になるということで選定されたようです。また、今回植樹した場所は、皆さんにより親しんでいたただけるように「メイプルの森」と名付け、公園のピオトップ活動と合わせて町民により管理されていくことになっ



植樹活動の様子

三八上北森林管理署
ています。
今回の活動は、六戸町の広報のほか、県内の新聞2社の地域版に掲載され、これまであまり接することのなかった六戸町の皆さんにも森林管理署を知っていただけたのではないかと思います。
今回の取組みを契機として、引き続き、管内の市町村と連携した取組を進めてまいります。

各地からの
たより

治山課

下北地域で発生した大規模山地災害対策の取組について

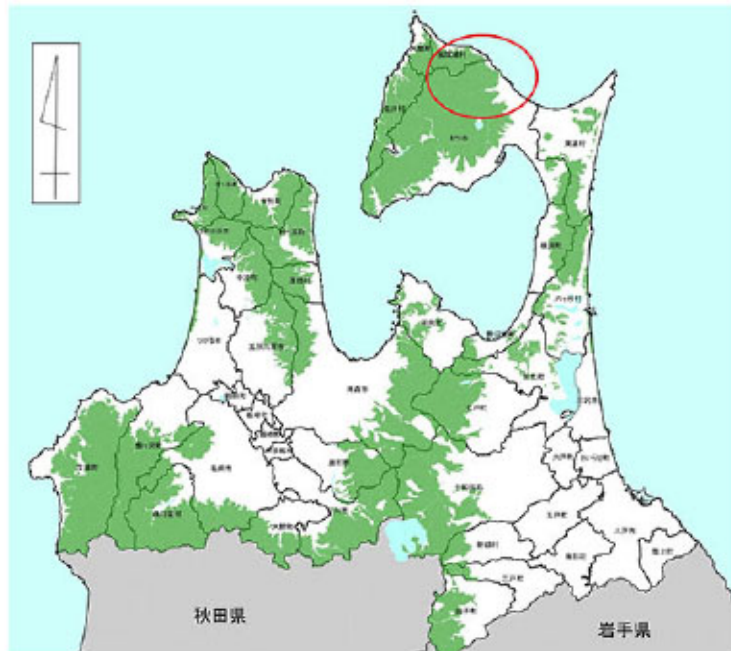


図1 災害箇所位置図

1 はじめに
東北森林管理局では、令和3年8月に青森県内で発生した大規模な山地災害について、管轄する下北森林管理署・三八上北森林管理署と協力しながら、緊急対策を含めた

災害復旧事業に取り組んでいます。
今回は、特に甚大な被害があった下北



写真1 被災した小赤川橋の流木による閉塞状況

地域での取組状況について報告します(図1)。
2 災害発生状況
令和3年8月9日から10日にかけて台風9号から変わった温

帯低気圧は、勢力が衰えることなく日本海を北東に進み、青森県下北地域を中心に大雨を降らせました。下風呂観測所の雨量データ(青森県)によると、9日13時から10日13時までの24時間総雨量が369mm、1時間最大雨量が59mmを観測し、風間浦村からむつ市にかけての国道279号線沿いの国有林及び民有林において多数の山腹崩壊が発生し、国道は通行止めになりました。また、むつ市と風間浦村の境界にある小赤川(上流部は国有林)では、洪水で橋脚・橋台周辺の河床の洗堀や渓床内に堆積していたと思われる流木が洪水とともに流下し、国道279号に架かる小赤川橋を落橋させる一つの大きな要因になりました(写真1)。
このほかにも国道279号線沿いでは、一部集落が孤立するなど甚大な被害が出ました。

3 応急復旧対策等
東北森林管理局は、管轄する下北森林管理署と連携し、各自



写真2 溪流内の流木の堆積状況



写真3 流木撤去後の溪流の状況



写真4 撤去した流木の処理状況

治体へのリエゾン（情報連絡員）の派遣、局から署への職員派遣による災害現地調査体制の強化、青森県との合同ヘリ調査、林野庁及び治山専門家、青森県との合同災害現地調査等の対応をしてきました。

特に、小赤川上流部の国有林内の治山ダムで止まった流木については、再び流下する危険性があるため、応急対策として溪床内から流下のおそれのない箇所への撤去を実施しています（写真2～4）。

また、近接する大赤川上流部にも治山ダムで止まった流木を確認していますが、山腹崩壊により運搬路が寸断されているため、別ルートでの運搬路を開設した後に流木の撤去を行う予定です。

4 今後の災害復旧方針

現在、下北地域で12箇所の災害関連緊急事業、1件の施設災害復旧事業について災害申請中であり、準備が整い次第、速やかに災害実施設計調査及び災害復旧工事の早期発注に向け作業を進めていきます。

今後も、令和4年度内の工事完了に向け、引き続き下北森林管理署と協力しながら、青森県

や各自治体とも協議・調整を図り、災害復旧事業に取り組んでいきます。



冬芽を見る ～トチノキの 防寒・防乾・防虫対策～

津軽森林管理署金木支署 奈良 真吾

今年も残すところ僅かとなりました。これから益々冬の寒さが厳しくなりますが、樹木は厳しい冬をどのように過ごしているのでしょうか。

すっかり葉が落ち、見通しが良くなった溪畔林を構成する樹種にトチノキがあります。トチノキは秋に葉を落とす落葉広葉樹で、この時期は生長が止まり休眠しています。トチノキの枝の先端には長さ2～3cmの冬芽（ふゆめ・とうが）があります①。冬芽は来春の新芽で、春に咲く花のつぼみや小さな葉が格納されています。新芽が傷つくと、花が咲きません。また、葉が光合成をして栄養を作り出せなくなります。ですから、冬の寒さや乾燥に負けないように、しっかりと防寒・防乾対策をしなければなりません。

まず、新芽を外部から保護しているのはうろこ状の芽鱗（がりん）です②。外側のものは小さくて硬く、内側のものは大きく柔らかいものとなっています。そして、

内部の白い綿毛で覆われた新芽には、複数の小さな葉が折りたたまれ格納されています③。長さ2cmの葉には綿毛が密生します④。ずいぶん毛深いですが、葉が生長するとほとんどなくなります。

そして、トチノキの冬芽には珍しい特徴があります。冬芽に光が当たると光って見える多量の樹脂（ヤニ）です⑤。芽鱗の内側にも樹脂がにじみ出ており⑥、触るとねばねばし、手につくとなかなかとれません。水を弾く性質があり雨を弾いてくれます。また、冬芽の表面をよく見ると、小さな昆虫が樹脂に閉じ込められており、寒さや乾燥だけではなく虫からも新芽を守っていることが分かります。

冬芽を覆っている樹脂、寒さや乾燥を防ぐ上着の役割を果たす芽鱗、保温性に優れた肌着の役割を担う綿毛からなる三重構造により大事な新芽を守っているのです。



①トチノキの冬芽



②14枚の芽鱗（下段右端は新芽）



③白い綿毛で覆われた新芽



④綿毛が密生する小さな葉



⑤芽鱗内側に溜まった樹脂





変わりゆく現場

三陸北部森林管理署久慈支署 森林官 館山 幸則

私が野田森林事務所に配属され、来年4月で3年になります。ここでは、森林官として、岩手県沿岸北部に位置する青森県との県境の洋野町と久慈市、野田村の約7,300haの国有林を管理しています。

管内を含む岩手県沿岸は、東日本大震災により甚大な被害を受けました。

大震災以前に隣接署の森林事務所に勤務していたことがあり、買い物などで野田村をよく通っていました。当時、村内の国道沿いにあった約一万本弱のクロマツ防潮林は、巨大な防潮堤に姿を変え、道路を挟んだ向かいには公園が整備され



震災前から変わらず立つ野田村イメージキャラクターのんちゃん

るなど、風景が一変してしまいました。

また、十数年ぶりに岩手県沿岸に配属になり変わっていたことは、山で見たり聞いたりする動物がカモシカやツキノワグマくらいであったものから、日本各地で大きな問題となっているニホンジカやイノシシが話題となっていたことです。

ツキノワグマは見かける頻度が昔に比べ格段に増え、沿岸の今までのいと言われていた場所でも爪痕や目撃情報などが寄せられるなど、生息域の広がりが感じられます。また、動物以外にも、令和元年に森林事務所管内で初めてナラ枯れ数本を駆除したほか、令和2年度は450本、今年度は約670本と被害が増加しているところです。

このナラ枯れ被害の発生地は、太平洋側の被害先端地となることから、見慣れない漁師の方から「最近枯れている木が見えるけどなんだ？」と声が上がリ、ナラ枯れで調査駆除を行っていることを説明しています。

こうした被害が拡大しないよう林野巡視の強化を図りながら防除対策に取り組んでいるところです。

また、管内では、マツタケが採れます

が、ここ数年は数十年に一度と言われる大凶作と大豊作が起こり、採取時期もずれるなど、マツタケ採りの人達が「もう少し平均的に出でくれないかね」と嘆く状況となっています。

このように、ここ数十年で山の状況が色々と変わったように感じられていることや頻発、激甚化の見られる集中豪雨など、日々起る状況に対応するため、市町村との連携を図っていくとともに、住民からの要請に responding していくため、広く意見を聞く姿勢と情報発信に努めていきたいと思っています。



ナラ枯れ被害地 三崎山国有林

我が署の名所



岩手県遠野市 岩手南部森林管理署遠野支署管内

「岩手の仙人峠」

岩手県盛岡市から釜石市に至る国道の通称である遠野街道（396号線）及び釜石街道（283号線）は、遠野市を中継点として藩政時代には既に整備されておりました。

街道は江戸の時代より岩手県の内陸部と沿岸部を結ぶ主要道として盛んに人の往来があった訳ですが、行き交う人馬を苦しめたのが街道最大の難所である「仙人峠」の存在でした。

仙人峠は、遠野市と釜石市との境にある山々の稜線上に位置します。

「遠野物語」にも登場する仙人が住んでいた山であることから仙人峠と命名されたと一説にありますが、この峠は難所であるのみならず当時の人々にとっては畏怖の対象でもあったであろうと、場に漂う雰囲気から感じられます。

峠の頂の一角には石造りの頑丈な祠が祀られておりますが、遠野はかつて様々な妖怪や魑魅魍魎の類いが現れたと伝えられる土地柄でもあり、ここでは旅する人々の無事な往来が真剣に祈願されていたことでありましょう。

ちなみに遠野物語には、次のような記述があります。

「夜、この山道にて若き女の髪を垂れたるに逢えり。こちら見てにこりと笑ひたり。」

時を経て戦後を迎え、遠野と釜石を結ぶ鉄道釜石線の全面開通、国道283号線の開通、そして東北自動車道と三陸道を繋ぐ自動車専用道路「釜石道」の開通があり、仙人峠を越える道は交通手段としての役割を終えました。

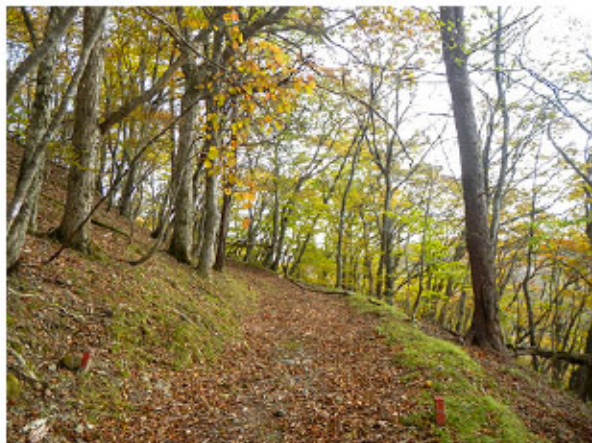
仙人峠への登山道は、国道283号線「仙人トネル」遠野側入り口駐車スペースの近くにあり、ます。

そこから祠のある山頂まで行くためには、登山道を歩いて一時間半ぐらいを要しますが、路面は今でも堅固で道筋もしっかりとしており、交通の要だった頃の長い歴史が偲ばれます。

登山道は国有林の中を通っていますが、道の両端には官民地境界標識が随所に埋め込まれており、古くからいわゆる「赤線」扱いであったことを示しています。



「仙人峠」遠野側の入り口



峠の頂へと続く山道



山頂に鎮座する石の祠

地域と地域を繋ぐ役目を果たし終えた今となっては、ほぼ地元の方々からも忘れ去られてしまい、平素から全く人の気配のない寂しい峠道ではありますが、軽いトレッキングコースとしては格好のルートです。

いにしえの人々が汗を流しつつ行き来した時代に思いを馳せながら、のんびりと峠道を歩いてみるのも一興かも知れません。